

ヨミネスしばた

Yominesu Shibata News

議会だより

特集

寄り添って…。
妊娠・出産・子育てサポート



第145号

発行 / 新発田市議会
編集 / 広報広聴委員会



県立新発田南高校の建築研修部と新発田まち遺産の会の有志の皆さん
(8月21日上赤谷・杉原邸 / 現在の家主は泰洋さん=後列向かって右から4番目)



1



5



4



3



2

寄り添って…。 妊娠・出産・子育てサポート

少子化が進み、子どもや子育てを取り巻く環境が大きく変化しています。誰もが安心して、子どもを産み育てやすい継続的な支援が求められています。市議会でも、子育て環境の整備は大きな課題として、行政に提言し続けています。今回の議会だよりでは、寄り添って、全力でサポートする現場取材しました。

医療法人社団関塚医院院長 関塚直人さんに聞く

コロナ禍での妊娠・出産は、母科学級や立ち合い分娩の中止等、厳しい環境が続いています。そんな中、関塚院長をはじめ、助産師、看護師が寄り添い、妊娠・出産のサポートをしています。

Q1 近年の出産状況は。

A1 分娩数は例年確実に減少しています。医師不足や働き方改革等で、分娩施設の集約化による減少も大きな問題です。

Q2 不妊治療は。

A2 高齢出産もあり、不妊治療は増加傾向です。安全性を第一に考えて不妊治療を行っています。流産率も高くなっています。14人に1人は体外受精で、不妊治療で妊娠されたときは、本人同様に喜びを感じています。
※令和4年4月から不妊治療は保険適用になりました。
※新発田市では、不妊治療費助成を行っています。



Q3 産後ケアについて。

A3 宿泊型・デイケア型があり、入院中に不安を訴える方や育児行為を習得したほうがいい方に寄り添い、サポートしています。また、新発田市には助成金があり、産後ケアが利用しやすくなっていると思います。産後ケアは大切な事業であり、今すぐ必要な方が利用できるよう、もっと周知する必要があります。

地域や横のつながりが薄い中、ネット情報で物事を判断し、育児をしていることを懸念され、市町村のみならず、地域社会全体で子どもを産み育てやすい体制整備を構築していく必要があると話されていたことに共感しました。

子育てサークル・サロン「なないろ」代表 板垣幸子さんに聞く

板垣さんは子育て真っ盛りの母ながら、毎月3～4回ほど子育て関連イベントを開催。運営は「お金も時間もかかるけど、子どもたちの笑顔が楽しみで続けています。子どもと親と一緒に楽しめる場所を提供していきたい」と意欲的でした。なお、会費は無料ですが、イベント参加費は必要です。



Q1 活動内容は。

A1 子どもの成長記録、撮影会、手形アート、ベビーマッサージなど、テーマを決めて子育て関連イベントをほぼ毎週開催しているほか、夏まつり、ハロウィンパーティー、雪遊び、シャボン玉遊びなど、大きなイベントも不定期で開催しています。

Q2 利用者の声は。

A2 市内には3歳未満の子どもが遊べる場所やイベントが少ないので助かります。(30代父親)
孤立しがちな子育て中のママ同士のコミュニケーションの場として助かっています。(30代母親)



Q3 今後の展望や夢について。

A3 新発田市で子育てがしたくなる、多くのママやパパにそう感じてもらえることが夢。そのためにはいつでも気軽に参加できる活動拠点が作れたらいいなと考えています。

「なないろ」は板垣さんが「趣味」という写真を最大限活用、子どもたちやママさん・パパさんたちの生き生きとした笑顔をホームページやSNSを通じて積極的に発信しています。ホームページをのぞいてみてください。▶https://tsuku2.jp/nanairo_

「フードバンクしばた」さんに聞く

生活困窮者への食糧支援から始まったフードバンクしばたの活動。現在、制服リサイクル、就学支援、子育て支援等、生活困窮者の現場の実情から、困っている人に寄り添って活動、支援策を事業化して展開しています。



Q1 ママの休憩室「虹」の活動は。

A1 産後うつなど育児に悩みを抱えている人を無料で支援しようと、事務所に開設しました。「夜眠れない」という方にはゆっくり休んでもらい、相談事は、一緒に考えて解決に向けて話をしています。来た時と帰る時の表情が変わっていて、来てもらってよかったと思います。

Q2 訪問型病児保育「こころ」の活動は。

A2 子どもが病気になったとき、親が仕事を休まなくてすむように、親に代わって保育園や学校に迎えに行ったり、病院へ連れて行ったり、依頼者の自宅で看護したりしています。病児の介護には、一般的に高額な費用がかかるため、無料で預かる仕組みが必要と考え、2年前に始めました。



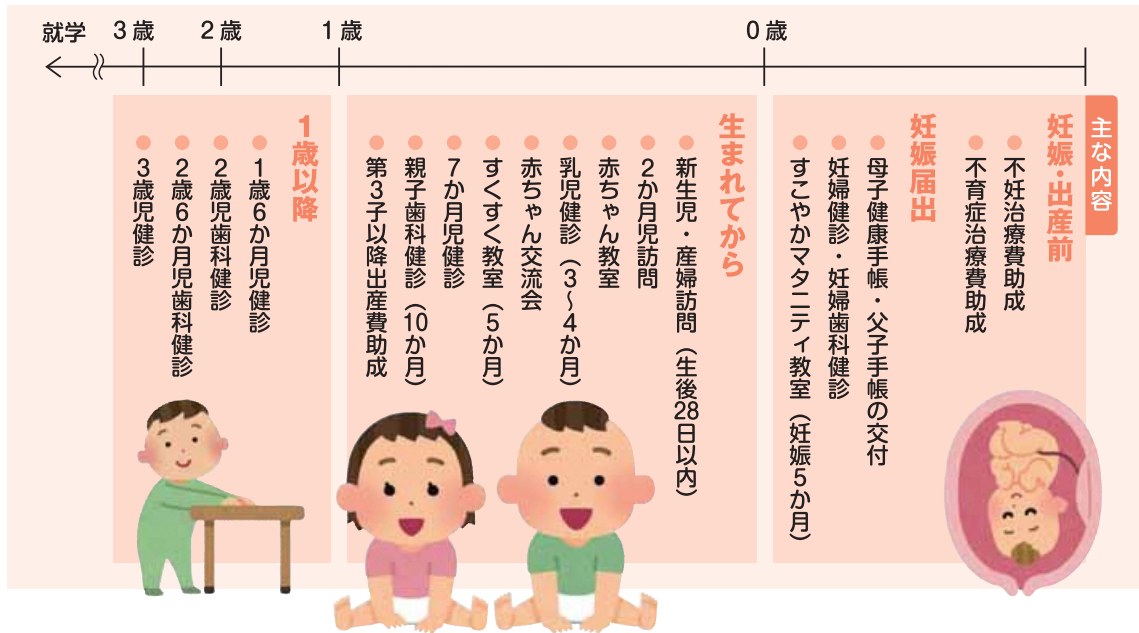
Q3 「お母さんのそうだん室」とは。

A3 保育士や保健師など、経験豊富な人たちがお母さんの困り事の相談にのっています。お子さんと一緒に来られても、相談中はスタッフがお子さんの世話をするので安心です。

困っている人が一人でも多く助かってもらえれば、という思いからすべての活動が生まれました。多くの企業・個人が共感して協賛してくれ、しばた方式のフードバンク事業が可能となっています。

◎妊娠・出産・子育てサポートの新発田市の取組みです。

新発田市では、安心して赤ちゃんを産み育てるために、かかりつけ保健師をはじめ、妊娠・出産・就学まで、切れ目のないサポートで子育てできる環境づくりを進めています。



◎妊娠・出産・子育てサポートの議会の取組みです。

市議会では、妊娠・出産・子育て支援等の施策や、事業についての検証をはじめ、市民の皆様から要望を受け、子育てしやすい環境整備を構築するために数々の質問・提案を行ってきました。主なものを紹介します。

妊娠・出産・育児・子育てに関連した議会の取組み（平成25年6月～）		
一般質問	35回	人口減少と少子化対策について 新発田市子ども・子育て支援事業について 不妊治療、産後ケア体制について 子ども発達相談事業について 父子手帳創設について 子育て支援環境整備について 病児・病後児保育について
会派代表質問	3回	かかりつけ保健師制度と子育てコンシェルジュについて 子宮頸がんワクチン接種、多胎児家庭への支援について 不育症・不妊治療支援、産後ケアについて
特別委員会 (予算審査特別委員会) (決算審査特別委員会)	4回	人口減少問題について 子育て支援について 父親支援について 子育てするなら新発田の検証について
意見書 (議会全会一致で国に提出)	4回	産後ケア体制の支援強化を求める意見書 「女性が輝く社会」の実現に関する意見書 国による子どもの医療費無料化制度の創設及び 国庫負担金減額調整措置の廃止を求める意見書 子ども医療費助成制度の拡充を求める意見書
常任委員会、会派、視察、研修	3回	子育て支援の取組みについて 文京区版ネウボラ事業について、子育て支援コンシェルジュについて 子育て支援政策について、すこやか赤ちゃん支援事業について



資料 新発田市の出生数・出生率推移

市の出生数は平成30年までは600人台でしたが、その後は減少が続いており、令和元年以降は500人台となっています。
出生率は、国より低い水準ですが、新潟県よりはやや高い水準で推移しています。
第3子以降の出生割合については、国、県より高い水準になりました。



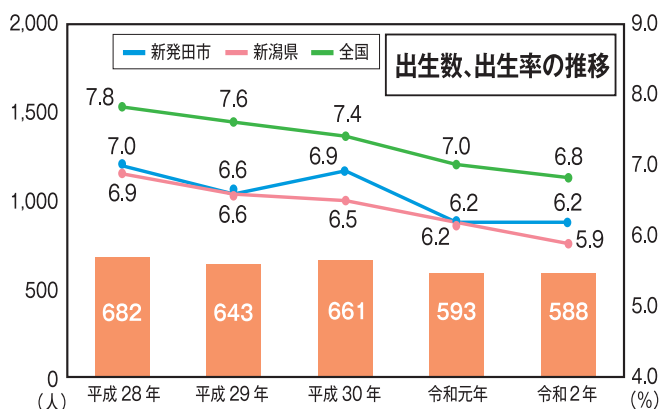
出生率・出生数

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
新発田市・出生率	7.0	6.6	6.9	6.2	6.2
新潟県・出生率	6.9	6.6	6.5	6.2	5.9
全国・出生率	7.8	7.6	7.4	7.0	6.8
新発田市・出生数	682	643	661	593	588

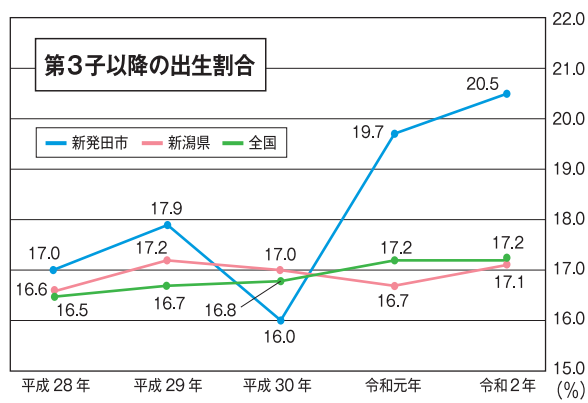
出生率：人口千人当たり

第3子以降の出生割合

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
新発田市	17.0	17.9	16.0	19.7	20.5
新潟県	16.6	17.2	17.0	16.7	17.1
全国	16.5	16.7	16.8	17.2	17.2



資料：新潟県福祉年報（市、県）、人口動態調査（国）



資料：新潟県福祉年報（市、県）、人口動態調査（国）

気軽に相談
してみませんか

- かかりつけ保健師 ヨリネス(市役所)2階 ☎ 28-9211
- 子育てコンシェルジュ ヨリネス(市役所)2階 ☎ 28-9230
- こどもセンター イクネスしばた2階 ☎ 28-9952
- 子ども発達相談室 猿橋コミュニティセンター2階 ☎ 26-3359



父子手帳



子育てきらきらカード

移動式赤ちゃんの駅



知っていますか？

議員、議会からの質問や提案で実現されました。

子育てきらきらメール



新発田市職員の育児休業等の改正について

<総務常任委員会での質疑>

Q 育児休業はどのように変わったのか。

A 地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正において、現行1回の育児休業が原則2回まで、そして子が出生後8週以内に1回取得できていた育児休業を2回まで取得できるようになった。



新発田市消防団員の定員、任免、給与、服務等の改正

●非常備消防活動運営事業

<総務常任委員会>

副分団長の報酬を43,000円から45,500円、部長の報酬を35,000円から40,000円、班長の報酬を25,000円から37,000円、団員の報酬を20,000円から36,500円に改め、出勤報酬を火災等の場合1日8,000円、捜索等は1回2,800円、予防・広報等は1回2,100円に改正。



旧天王小学校体育館、グラウンドは、これまで同様、社会体育活動や地域活動に



<社会文教常任委員会>

旧天王小学校の校舎部分、教室、教務室等はシェアオフィスに移行。残る体育館とグラウンドはこれまでと同様、社会体育、あるいは地域の活動等で利用できます。

3歳児健診において視力の屈折検査を実施

●母子健康診査事業

3歳児健診の視力検査で、屈折検査を導入し、子どもたちの屈折異常による弱視の早期発見、早期治療につなげます。

<社会文教常任委員会での質疑>

Q 委託料9万円の使い道は。

A 屈折検査を受け、精密検査が必要になった場合、医療機関を受診するための委託料。他市では10～15%程度が精密検査を受ける。

介護保険の基金積立金の増額と国県支出金の精算

<社会文教常任委員会>

令和3年度の事業費確定に伴う介護給付費等の剰余分を基金に積み立て、同じく介護給付費や地域支援事業費の確定に伴う国県支出金等の精算を行います。

高校生・大学生等支援給付金事業

<社会文教常任委員会>

高校生や大学生等がいる生活困窮世帯を対象に、安心して学業に専念できるよう支援します。高校生のいる家庭のうち、国や県からの支援がある住民税非課税世帯や均等割のみ課税世帯を除き、年収おおむね500万円未満の高校生等がいる所得割課税世帯や、同様に大学生等がいる世帯等に対し、対象となる高校生や大学生等1人当たり10万円を給付。

主なものをご報告します。

定例会

憩いの川辺親水歴史川遺構の保存に関する(求める)陳情書

<陳情書の概要>

佐々木川(現太田川)の水害や、慢性的な飢饉が住民を苦しめてきたが、270年前頃、山本丈右工門は莫大な干上地開墾を成し遂げ、その業績は丈右工門橋として名を刻み、その偉業が物語られている。

その苦難の歴史を克服し、その努力が引き継がれ、継続してきた心が形となったのが下興野集落中央を流れる川であり、遺構なのである。

しかし、川辺の維持管理は高齢に伴い徐々に困難となってきたことから、遺構としての保存整備の早期実現を切に願い陳情する。

憩いの川辺親水歴史川遺構の保存

- 1 川岸の護岸改修
- 2 浚渫
- 3 堰止め改修

8月3日、4日の豪雨対応

- 排水機場・排水路維持管理事業
西名柄、道賀排水機場の燃料費及び除塵機の集積物の運搬処分に要する経費の増額。
- 道路維持管理事業
路面堆積土砂の撤去や土のう積みなどの緊急対応経費など。
- 河川維持管理事業
上寺内及び小戸の流木等の撤去経費や調整池流入土砂・草などの清掃・処分経費、箱岩の法面侵食の応急工事経費の追加。
- 公園維持管理事業
新発田中央公園の復旧工事費の増額。
- 市道、河川災害復旧事業
蔵光の市道陥没、上寺内の護岸外側の6か所、箱岩の護岸崩落の復旧対応経費の追加。

<経済建設常任委員会での質疑>

- Q 除塵機に集積した物の実態は。
A ごみも含め、庭木などの草木等。

主な議案等に対する賛否の一覧

議第24号	新発田市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定について	全員賛成
議第26号	新発田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例等の一部を改正する条例制定について	全員賛成
議第33号	新発田市旧学校施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について	全員賛成
議第36号	一般会計補正予算第5号	全員賛成
議第39号	介護保険事業特別会計補正予算第2号	賛成多数
議第41号	一般会計補正予算第6号	賛成多数
議題53号	一般会計補正予算第7号	賛成多数
陳情第2号	憩いの川辺親水歴史川遺構の保存に関する(求める)陳情書	全員賛成



詳細およびここに記載以外の議案は
市議会ホームページをご覧ください。

9月定例会

歳出 492億5,524万円(対前年度比54億6,329万円／10.0%減)
歳入 523億9,059万円(対前年度比41億267万円／7.3%減)

前年度に比較して、歳出約55億円の減額となった令和3年度決算。主な理由は、令和2年度に限って緊急経済対策として国が実施した特別定額給付金支給事業の減によるものです。決算審査は、**新型コロナウイルス感染症対応**及び**事前に議論を重ねた内容**を重点的に行いました。

重点項目を
事前に協議

総務関係

- 防災対策

社会文教関係

- 健康長寿

経済建設関係

- 後継者問題

議員から選抜
された委員が
決算審査特別
委員会で議論

一般会計決算審査特別委員会

委員長	比 企 広 正
副委員長	阿 部 聡
	湯 浅 佐太郎
	板 垣 功
	板 倉 久 徳
	小 坂 博 司
	三 母 高 志
	渡 邊 葉 子
	加 藤 和 雄
	渡 邊 喜 夫

新型コロナウイルス感染症対応

- 新発田のコロナの経済対策は大成功だが、乳牛農家のことも考えてもらいたい。
- 行政には新発田牛の肥育農家が経営を維持し、発展するような販売環境を整えてもらいたい。
- 新発田牛はブランド化したが、まだまだ弱い。様子を見ながら支援することが大事。
- 姫のてまりは大成功だったので、同じような形で新発田牛も広報して、お金になるような形をつくっていくのが大切。
- 牛乳の価格はなかなか上がらず、飼料の高騰で困っている。議員も、酪農も含めて総合的に考えていかないと駄目だと思う。



防災対策

- 公助としての消防、警察、自衛隊の支援が届くまでの自主防災組織と消防団の連携という、自助、共助の努力が必要。
- 新発田市の災害の現状を市民と共有して、どう守るかという意識づけをすべき。
- 自主防災組織の組織率が91.4%なので、ハザードマップを基に地域で訓練して自助を強化すべき。
- 災害で、一番大事なものは人の命を守ること。そこに重きを置いて情報発信の重要性を市民の方々にぜひ意識づけすべき。
- 担当課は自主防災活動が活発でない地域をバックアップしていくことが必要。

決算を審査・可決しました

市長と一問一答 市長総括質疑

●生活保護受給者、生活保護世帯に対するエアコン設置補助制度の新設

Q 平成30年3月以前から生活保護を受給している世帯にもエアコン購入費を補助できないか

A 来年度1年間だけ申請すれば、制度矛盾の部分は市で賄う。ただし、2、3年後にやっぱり欲しいというのはできない。

●第3子に対する給食費の支援拡充

Q 義務教育は、無償の原則に近づく必要がある。当市の第3子に対する給食費の支援を拡充できないか

A 少し研究したい。子どもの支援はトップランナーだと思っているが、全国ではもっと進んだ自治体が出ている。財源の確保も含め、市民に喜んでもらえる制度にしたい。



●3歳児の保育士配置基準の見直し

Q 国も市も園児20人に1人の保育士だが、国は3歳児、15対1で地方交付税措置している。今、私立保育園は20園中1園、公立保育園は13園中4園が15対1ではない。配置基準を15対1にすべき

A 地域性で2園に児童が集中している。少子化の中で、しばらく様子を見て、判断すべきときにははっきり答えを出したい。



●サン・ワークしばたの食堂の再開

Q 近くに森林館や自販機もあるが、食堂を再開できないか

A このままでいいとは思っていない。観光協会と一体で利用する方法はないか、観光協会と協議をし、研究する。

本会議での認定へ

本会議での賛成・反対の討論は次のページへ

重点項目についての議論の内容

健康長寿

- がんは、早期発見、早期治療が大事。健診率、受診率のアップとフレイル対策の双方を進める。
- 特定健診と特定保健指導をもう一工夫して、口腔ケア、ときめき週1クラブの事業も進めてほしい。
- 今年度はeスポーツも始まるが、いろいろなイベントへの参加率の向上が健康長寿には一番大事。
- 毎日の食生活が大切。認知症の取組みも必要。
- 社会参加して生きがいをつくるのが大事。
- 8020運動や自殺対策、口腔ケア、市民向けの情報発信など、やることはまだいっぱいある。



後継者問題

- 中心商店街は活性化していないが、新規創業支援や駅前エリアプロジェクト等は動いている。点から線、面という形で取り組み、取捨選択して生かせるところを生かしていく。
- 広い視野を持って行政がそれをバックアップする体制が必要。今までどおりでは難しい。
- 事業継承の金銭面を含めた支援策の拡充が必要。
- 新発田の産業や企業を多くの若者に知ってもらうのも大事。
- 行政のバックアップが必要。企業間連携促進事業の強化を図る。

討論

令和3年度一般会計決算について、賛成・反対の意見を述べています。

賛成

令和会 湯浅 佐太郎

令和3年度決算の認定には賛成する。コロナ禍で洪水・豪雪等忙しい年だった。実質公債比率・将来負担比率は良化している。財政調整基金も36億を超えている。良好な財政状況だ。市長の積極的な政策で災害に負けない安心安全なまちづくりを期待する。

反対

日本共産党 宮村 幸男

職員定数比、減の中でコロナ対応がされた。今後は職員を増やし労働環境の改善を図るべきだ。デジタル化が推進されるが、監視社会にしない個人保護の方策を先行すべきだ。農業所得が低下し基盤が揺らぐ。持続可能な農村づくりの農業農村振興の取組みを求める。

賛成

共道しばた 入倉 直作

決算は31億の黒字ではあったが、うち18.7億は使われず残った予算であり、膨れ上がるコロナ予算の中で本来使うべきところに使われたのか検証も必要である。経済対策はウィズコロナの際の支援が重要で、今後物価高に直面する市民生活に目を向けるべき。

賛成

公明党 渡邊 喜夫

感染症対策、経済対策としての農家の燃油高騰支援、中小企業の資金繰り、サプライチェーン強化等の取組み、新発田牛、イチゴ「姫のてまり」のブランド化推進を評価。児童生徒にICT環境整備と英語力向上。介助員、看護師の適正配置に特別支援教育の充実を評価。

賛成

つなぐ会 阿部 聡

新型コロナウイルス対策では感染防止・経済対策ともに前年度同様、素早い対応だった。とはいえ悪影響は続く。牛乳生産農家への支援など、きめ細かな目配りを期待する。防災対策では市民の安全を守るため、即効性のある新発田市独自の対策を立案・実行を要望する。

賛成

小柳 はじめ

コロナ禍が長引く中、国県の方針を先読みしリスクを取って政策遂行につなげたのは政治家出身首長のなせる技。交付税が潤沢に配分され財調も積み増しできたのは強運そのもの。茹でガエルにならぬようコロナ後を見据えた戦略的投資へ積極的に取り組んで欲しい。

8つの特別会計、2つの企業会計の決算を 審査・可決。主な議論は次のとおりです

【コミュニティバス事業】

- Q** 市街地循環バスやコミュニティバスの乗車人数が減ってきているが原因は
- A** 利用状況は、やはり人口減少ということで利用母体が少なくなっている。免許返納によって確かに利用者が増えるが、今のところ減るほうが多い。チラシなども含めてしっかり定期利用者を増やしていきたい。



【国民健康保険事業】



- Q** 基金の適正規模はどれぐらいで、それに対して現状はいくらで、この基金の用途はどういうものか
- A** 基金の適正規模は、大体5億円から5億5,000万円ぐらいと考えており、令和3年度末で7億1,700万円ほどで、その最低ラインを若干、上回っていると考えている。基金の用途は、県への納付金や保健事業の費用が不足した場合に支払うものである。

【下水道事業】

- Q** 下水道の接続率は
- A** 現在の接続率は、令和3年度末の数値で、旧町村別で旧新発田が61.25、旧豊浦が57.12、旧紫雲寺が53.04、旧加治川は61.7となっている。



このほかに、特別会計には、土地取得事業、介護保険事業、後期高齢者医療、宅地造成事業、食品工業団地造成事業、藤塚浜財産区があります。企業会計は、水道事業があります。

一般質問

今後の生活 どう変わる？どうなるの？

一般質問とは？

私たちの暮らしに関係する身近で大切な問題について、議員が市長や教育長に直接聞いたり、提案したりしました。

一般質問の内容を動画で視聴できます。市議会ホームページの「議会中継」から「本会議録画配信」を検索するか、スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み取りご覧ください。



Q1 大雨による市街地浸水対策について Q2 GIGAスクールの今後について

◎ 板倉久徳 議員



- Q 中田川の県による改修は急務だが、市としての対策も必要と思うが。
- A 排水ポンプ車の配備や消防団ポンプ車で排水する等、すぐできることから対応。
- Q 本丸中学校前の浸水常襲地は早急に雨水幹線の整備が必要では。
- A 雨水基本計画の見直しを行い対策を考えていく。すぐできることとして、育成センター

脇の排水ポンプを改修する。

- Q デジタル教材には費用面で課題もある。保護者の負担には配慮し、財政の負担は国・県に要望するなど教育環境の充実を。
- A 学習支援アプリは継続できるよう協議し、教育環境の充実に努める。



Q1 蔵春閣の現在の工事状況について Q2 有機米輸出事業の経過と課題について

◎ 水野善栄 議員



- Q 蔵春閣の附帯施設工事や植栽作業等の現在における進捗状況は。また竣工予定について。
- A 今現在、工事は順調に進み、附帯施設の工事等や植栽等の外構工事を含め令和5年1月中に作業を完了、3月中に竣工の予定である。
- Q オーガニックSHIBATAプロジェクトの途

中経過と、これから作付け面積を拡大する予定については。

- A 洪水被害や鳥獣被害の発生はなく順調に推移している。現在は6ヘクタールであるが10年後には100ヘクタールを目指している。





Q1 投票率向上と主権者教育の取組みについて
Q2 災害対策の拡充・強化について

◎ 渡邊 葉子 議員



- Q 投票率向上に向けての具体策や案はあるか。
- A 選挙出前授業の実施回数を増やしていく。
- Q 若年層の投票率低下に向けて検討・打開案は？
- A 模擬選挙や講義等を通して啓発し進めていく。
- Q 小・中学校での主権者教育の現状はどうか。
- A 社会科や生徒活動を通し意識を醸成している。

- Q 新発田市国土強靱化地域計画の改定予定はあるか。
- A 国・県の動向に注視し迅速に対応していく。
- Q 小・中学校での防災教育の取組みと現状はどうか。
- A 防災キャンプ等を通し学びを深めている。



Q1 西新発田駅南側ロータリー整備について
Q2 行政の(個人情報含む)データ管理について

◎ 五十嵐良一 議員



- Q 西新発田駅南側にある市有地を活用し、通勤・通学者の自家用車による送迎を北側と南側に分散することで渋滞緩和できないか
- A 令和3年度に、送迎車等がUターンできる程度の用地は取得していることから関係機関と協議し、早期に計画を立てたいと考えている
- Q 個人情報保護法が令和5年度から自治体も

- 適応対象となり、委託先等が個人情報を漏洩した場合報告を義務付けられていることについて
- A 個人情報管理体制について定めた「新発田市保有個人情報等の取扱いに関する管理規程」の作成を令和5年4月施行に向け進めている



Q1 带状疱疹ワクチンについて
Q2 みどりの食料システム戦略について

◎ 渡邊 喜夫 議員



- Q 高齢者は重症化しやすく入院される方も多い。ワクチンは高額であり助成の考えは。8月現在37市区町村が公費助成している
- A 提案をいただいたので市で調査、研究する時間をいただきたい
- Q 有機農産物の需要と生産拡大は
- A 海外市場は大好評。令和5年産オーガニック米は4年産の約10倍要請がある

- Q 新たな農業技術や機械導入が必要。支援策は
- A 有機農業に取り組む経営体に導入支援し基盤強化を図る
- Q 先駆的な自治体では学校給食の有機農産物使用が広がっている
- A 食育の観点から見習う点がある。供給量や価格等が課題。研究を進めたい





Q1 二階堂市政3期目の総括について
Q2 豪雨水害から市民を守る方策について



▶ 小林 誠 議員

- Q 「保育料完全無料化」の公約は達成したか
- A 保育料完全無料化は国の方針転換があったが、任期中には達成できなかった。お詫びする
- Q 「全ての小中学校にエアコンを」を目玉政策にしていたが、体育館についてはどうか
- A 断熱性の問題で難しい
- Q 4期目の公約は何を検討しているか

- A 健康田園文化都市のスローガンは継続する
- Q 集中豪雨時の市内の道路冠水については中田川の改修が不可欠であるが県との協議状況は？
- A 新潟県に対し中田川改修整備促進協議会を通じ要望しており、これまで以上に働きかけた



Q1 公共交通の課題について
Q2 市民目線での水害対策について



▶ 三母 高志 議員

- Q 来年度の五十公野～赤谷地区地域公共交通の土日運行は、全便全停留所でのデマンド運行として再検討してはいかがか。
- A 土日運行は乗降調査における1便当たりの利用者が一人未満と極めて少なく、健全財政の観点から実施は難しい状況と考える。
- Q 新発田市でも災害に備え、自治会単位での「土のうの確保」を進め、市民にPRしてはいかがか。

- A 土のうによる対策は被害軽減に繋がる。自治会単位で土のうを受け取れる流れを広報し、市ホームページ等でPRし防災力を強化する。



Q1 旧統一教会及び関連団体と市及び教委の関係
Q2 「紫雲の郷」経営悪化問題と今後の対処方針



▶ 小柳はじめ 議員

- Q 市長自身の選挙支援はあったのか
- A 金銭的支援はないが教会側から電話応対手伝いの申し出がありお願いした
- Q 関連団体開催のイベントへの関与及び認定の基準は
- A 市が5件、教委が3件後援したが事業自体に宗教色がなければ問題ない
- Q 靈感商法の被害相談などを市独自で実施する考えは

- A 今のところ考えていない
- Q 紫雲寺町合併時から現在までに市が投入した総額は
- A 昨年度末で指定管理料や補修費等で11億7,131万円
- Q 今後も厳しい経営環境が見込まれるが民間売却なども検討すべき段階でないか
- A 県の土地・施設もあるため現状では難しい





Q1 旧統一教会と広報の記事内容との関連性等
Q2 8月の豪雨で親水広場建設予定地が冠水した



▶ 青木三枝子 議員

- Q 広報しばたに掲載された旧統一教会系の「郷土を元気にする会」の歴史勉強会は宗教色強く問題
- A 内容を確認し掲載したが、参加者から2度にわたり苦情があり以後の掲載を取りやめた
- Q 「郷土を元気にする会」主催で教育委員会後援の大倉喜八郎の講演会参加時に記載した個人情報が使われ戸別訪問を受けた方がいるが

A 会に確認した結果、会としてはわからないとのことだったが、市の事務取扱要綱に従い、今後は後援協力はできないことを伝えた

Q 工事方法の変更等なく進めるのか

A 護岸の嵩上げなどの対策を行いながら工事を進める



Q1 水害対策に本腰を



▶ 阿部 聡 議員

- Q 新発田市内では6月27日、8月3・4日と内水氾濫が起きた。前回質問では抜本的対策として中田川の排水能力を高めること、緊急対策として西名柄・道賀排水機のリモート運転を提案した。質問後の水害対策・今後の対策を問う。
- A 抜本的改修は時間を要するので、排水ポンプ車導入、雨水調整池の設置などを進めている。県には、西名柄・道賀排水機場のポ

ンプ始動の遠隔操作システム配備などを強く要望していく。

※他に健康長寿のための検診率向上について質問した。



Q1 医療的ケア児・者の支援体制について
Q2 持続可能な農業のために



▶ 石山 洋子 議員

- Q 災害時に安心して避難できるために、非常用電源装置の助成について。
- A 日常生活用具の給付品目に蓄電池や発電機等を加える指示をした。新たに必要なのは検討し、速やかに対象品目に加えるよう併せて指示をした。
- Q 農繁期の人手不足対策。スマートフォンアプリ等を活用したマッチングについて。

A マッチングアプリを取り入れる準備を進めていく。

Q 就農につなげるための大学校、専門学校との連携について。

A 積極的に訪問し、農業を職業選択の一つとして働きかけていく。





Q1 ヤングケアラー支援について
Q2 地域経済の好循環を求めて



小坂 博司 議員

- Q ヤングケアラーが発見された場合において、市は具体的にどのように取り組むのか？
- A まずは丁寧な聞き取りを行い、世帯状況の実態把握に努め、利用可能なサービスへ積極的につなぎ、負担軽減を図っていく。
- Q 最低賃金が過去最大幅で引き上げとなった。また、「早期に時給1,000円をめざす」としている。市長の見解は？

- A 市内企業のデジタル化を支援し生産性を向上していくことで市内経済の好循環と、賃金水準の向上を図っていく。



Q1 水害対策はまったなし
Q2 旧統一協会との関係は絶つべき



加藤 和雄 議員

- Q 6月の土砂災害避難指示での避難状況は
- A 避難所12箇所を開設、18世帯42名が避難
- Q 8月の水害では膝まで道路冠水した。歩行者や車の走行は危険、早く通行止めにするには
- A 迅速な通行止めが重要と認識した。今後は職員の体制整備と防災協議会との連携を強化し対応を図る
- Q 加治川が破堤したら大被害が予想される。過去最高の水位は
- A 平成17年6月に16.28mを観測

- Q 旧統一協会や関連団体への過去の後援は取り消すべき
- A 顧問弁護士に相談してみたい
- Q 相談窓口を設置すべき
- A あんしんメールとホームページで相談窓口を周知した



Q1 コロナ融資後3年経つが返済に支援策は
Q2 インボイス制度は中止を



宮村 幸男 議員

- Q 地場中小企業がコロナによる減収と物価高騰のダブルパンチだ。国からのゼロゼロ融資等の返済が始まるが支援策は。
- A 国から「中小企業活性化パッケージ」で資金繰り支援や事業再生に向けた総合支援策が示されている。市が支援策を実施することは考えていない。
- Q 来年10月からインボイス制度が始まる。市も一般・特別会計が関連する。免税事業者

が取引から除外される可能性もあり、国に中止を求めるべき。

- A 正確な消費税額を把握し適正な納税を確保することが目的。公平性の観点から中止や延長を求めることは考えていない。





Q1 4期目のまちづくりを問う
Q2 排水対策とAED設置について



▶ 中村 功 議員

- Q 合併前旧町村の魅力を活かしたまちづくりになっていないのでは。
- A 国・県からの支援もあり各地域特性を活かした取組みができた。
- Q 次期の市長選に向けてのお考えは。
- A 各地域特性を活かした均衡ある発展を目指し選挙公約で示したい。
- Q 冠水を防ぐために抜本的な排水対策を考えるべきではないか。

- A 公共下水道雨水基本計画を見直し具体的なハード整備を実施する。
- Q 指定避難所におけるAEDの配備は万全か。
- A 48か所には設置済。残り3か所は隣接施設や市保管AEDで対応。



研修の報告



男女共同参画を阻んでいるのは「無意識の偏見」の存在がある

◎第8回議員政策勉強会 <8月8日(月)>

ジェンダー平等について

講師 長岡技術科学大学
 男女共同参画推進室
 特任講師
 西原 亜矢子 さん



日本はなぜ男女格差指数が先進国最低レベルなのか、女性の活躍を阻む「無意識の偏見」とは何かについて、様々なデータをもとにした解説があった。

男女の賃金格差、女性管理職の少なさ、家事・育児労働時間格差が生じる要因の一つとして、「女性は家事・育児を担い、男性は外で働く」といった役割への固定観念や「男はこうあるべき」「女だからこうに違いない」といった無意識の偏見が作用しているという。

また、男女平等や男女間で公正な労働環境整備に向け、男女雇用機会均等法・女性活躍推進法が制定され、さらに、少子高齢化による労働力不足

が深刻化する中で、企業も変わってきており、性別・年齢・障がいの有無・国籍など「多様性を活かすことが、組織の強みになる」という経営戦略の時代に入っているとの指摘があった。

ジェンダー(社会的・文化的な性別)を意識的に振り返り、問い直すことによって、「無意識の偏見」から解放され、行動様式や男女平等社会へと変えていくことの重要性をご教授いただいた。

議員からは「結婚して、家事育児は嫁(女性)の仕事として無意識にやってきたが、世代が進んで嫁の立場も変わってきた。男女格差の改善効果は期待できるか」、「男性が育児休暇を取りやすくするには、何から変えていけばよいか」など、活発な質問が繰り出され、意義深い勉強会だった。



議会報告会を開催します！

議会報告会では、令和3年度新発田市一般会計決算関係を中心に9月定例会で審議された内容を報告するほか、市民の皆さまと意見交換も行います。

<新型コロナウイルス感染防止のためのお願い>

- ◇マスクを着用の上、ご参加ください。
- ◇感染防止のため、発熱、咳など風邪の症状がある方、体調に不安のある方は参加の自粛をお願いします。
- ◇新型コロナウイルスの今後の状況により、感染拡大を防止する観点から、開催を中止する場合があります。中止の際は、市議会ホームページでお知らせします。



開催日	時間	会場		各班の説明議員
11月26日 (土)	午前10時～	五十公野コミュニティセンター	1班	1班 中村 功、今田修栄、宮崎光夫、 板倉久徳、入倉直作、渡邊葉子、 加藤和雄、渡邊喜夫
	午前10時～	東豊コミュニティ防災センター	3班	
	午後1時30分～	市役所本庁舎4階委員会室	1班	2班 小川 徹、比企広正、湯浅佐太郎、 小林 誠、三母高志、中野廣衛、 佐藤真澄、小柳はじめ
	午後1時30分～	豊浦地区公民館	3班	
11月27日 (日)	午前10時～	市役所本庁舎4階委員会室	2班	3班 宮村幸男、若月 学、板垣 功、 水野善栄、五十嵐良一、小坂博司、 阿部 聡、石山洋子、青木三枝子
	午後1時30分～	加治川地区公民館	2班	

※事前の申込みは必要ありません。※どの会場にご来場されても構いません。

Web議会報告会は12月2日(金)19時 配信！

【日 時】

令和4年12月2日(金)19時から20時30分
(終了時間は予定です)

【内 容】

9月定例会の審議内容報告
(令和3年度一般会計決算審査の概要を中心に)
当日「YouTube Live」のチャット機能でいただいた
質問にリアルタイムでお答えする予定です。
※すべてのご意見・ご質問にお答えできるとは限りません
のでご了承ください。

【参加方法】

新発田市議会のYouTubeチャンネルでライブ配信します。
右の二次元コードを読み取ってご覧ください。
ぜひ、チャンネル登録もお願いします。
※ライブ配信は、配信ページにアクセスしていただければ
どなたでもご覧いただけますが、チャットへの参加には
YouTubeへのログインが必要になります。



二次元コードを読み取ると
上の画面になります



議会からのお知らせ

12月定例会日程予定

日	月	火	水	木	金	土
11/27	28	29	30	12/1	2	3
				本会議 (提案理由説明)		
4	5	6	7	8	9	10
	本会議 (一般質問)			常任委員会 (総務)		
			議会運営 委員会		議会文教	
11	12	13	14	15	16	17
	常任委員会 (経済建設)		議会運営 委員会		本会議 (議案等採決)	

※請願・陳情の提出期限は11月25日です。
 ※変更等の場合は、ホームページ・エフエムしばた等でお知らせします。
 ※一般質問2日目及び3日目は、一般質問の通告議員が多い場合に行います。

本会議を生中継しています

本会議（定例会のみ）の開始（午前10時）から終了まで中継しています。

① FM放送

エフエムしばた（76.9MHz）で生放送します。



② インターネットサイマルラジオ

右の二次元コードまたは、エフエムしばたのホームページのバナーから聴くことができます。



③ インターネット生中継

市議会ホームページで生中継します。下の二次元コードまたは「新発田市議会」で検索し、「本日の議会中継」からご覧ください。



市議会ホームページはこちらから

新発田市議会



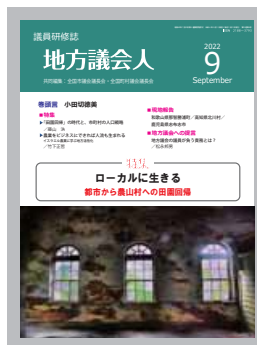
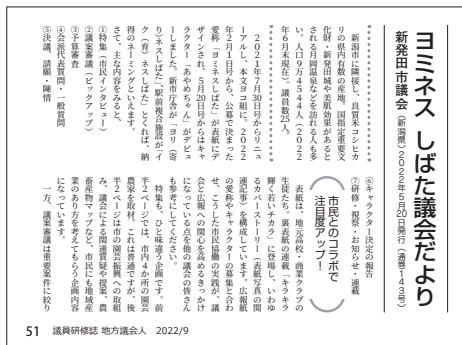
<https://www.shibata-shigikai.jp/>



月刊『地方議会人』『市町村議会広報クリニック』に掲載されました！

月刊『地方議会人』の「市町村議会広報クリニック」にヨミネスしばた議会だよりが掲載されました。

『地方議会人』は市区町村議員のための研修誌。「市町村議会広報クリニック」は全国市町村議会の議会だよりから選ばれた数誌が掲載されるコーナーです。今回は、数ある議会だよりの中から注目していただき、講評をいただくことができました。表紙・裏表紙の企画など、お褒めいただいた部分はこれからも続け、ご指摘を受けた点は今後の参考として、皆さんに議会に関心を持ってもらえるよう、編集委員一同、がんばってまいります。



↑掲載ページの内容はこちらの市議会ホームページ「お知らせ」からご覧いただけます



SHIBATA TOPICS

キラキラ輝く若いチカラ



しっかり学んで、地域の役に立てる人になりたい！



｜表紙写真｜

部活で上赤谷の古民家を実地調査して、 木材の自然な使い方や空間の広さを実感する

「古民家は広くて、自然と寝転びたくなります」

写真説明／表紙①②③④杉原邸の土蔵前(昭和4年築)で記念写真。広い杉原邸のことで、初回は母屋(明治32年築)、2回目は土蔵を実測した。建築研修部は部活動。部員はすべて南高校の建築工学科の生徒たちである ⑤何度も図面を確認する南高校建築工学科の寒河江美和先生とまち遺産の会の会長で建築士の伊藤晋栄さん ⑥⑦写真は建築工学科の実習風景だ。基本的な技術もしっかり学んでいる。多くの生徒は進学する ⑧指導にあたった寒河江先生は「まちに出かけて実際の建物などを調べるときは生徒同士が相談しながら進めるんです」と、普段の授業だけでは養えない教育効果があると話す。また、建築研修部長の荒木龍之介さんは古民家に大いに刺激を受けたように「将来は歴史的建造物を生かしたまちづくりをしてみたい」と目を輝かせた。

かつての会津街道の宿場町、その後は赤谷鉱山でにぎわった赤谷地区。今は高齢化が進んで若い人は少なくなった。そんな中、ここで生まれ育った杉原泰洋さんが「赤谷に光をあてたい」と生家の杉原邸の文化財登録を市に相談、新発田まち遺産の会を紹介された。すでに多くの寺や商家などを文化財登録しているまち遺産の会は早速、調査に入った。それを手伝ったのが、新発田南高校の建築研修部の皆さんと古民家に興味を持っている高校生たちだ。調査は7月24日と8月21日の2回にわたって行われ、巻尺などを使って隅々まで計測され、修正を重ね、図面に落とされた。今年中の文化財登録申請を予定している。

「木造の民家は落ち着きます。広くて自然と寝転びたくなります」と杉原邸に魅了された新発田南高校の建築研修部長の荒木龍之介さん。新発田南高校は大正6年開校の伝統校で、昭和58年に工業科に普通科を併設した。工業科は機械・電子情報・建築・土木の4学科あるが、「一括くくり募集」で生徒の適性をていねいに見極めることで有名だ。

新発田南高校

検索

編集後記

3年ぶりに城下町新発田まつりが開催され、期間中は多くの市民で賑わいました。お祭りも終わると朝夕が涼しくなり、秋を感じる季節です。さて、145号表紙には県立新発田南高校の建築研修部と新発田まち遺産の会の皆さんによる古民家実地調査の様子、巻頭特集は「妊娠・出産・子育てサポート」をテーマに取材し編集しました。取材を通して

歴史遺産について、子育てについてあらためて学ぶことができました。議会だよりの編集は、議員が取材に行き、原稿を書き、会議を繰り返して作り上げていきます。議会の内容が市民の皆様にも少しでも分かりやすく伝わるよう、これからも努力していききたいと思います。

(文責・板倉久徳)

【広報広聴委員】委員長／宮崎光夫 委員／板倉久徳・阿部聡・小林誠・加藤和雄・石山洋子